

構造改革特区計画書

1. 構造改革特別計画の作成主体の名称

長崎県

2. 構造改革特別区域の名称

壱岐いき離島留学教育特区

3. 構造改革特別区域の範囲

壱岐市の全域

4. 構造改革特別区域の特性

(1) 壱岐は玄界灘に浮かぶ島である。壱岐島は、九州～壱岐～対馬～韓国という東アジア大陸と日本列島を結ぶ導線上に位置することから、弥生時代になると日本と朝鮮半島間の海上交通の要衝として重要視され、大陸と日本との二つの文化圏の接点として、最も新しい華やかな文化を開花させていた。遣隋使や遣唐使などの使節団は、壱岐を寄港地として往来するなど、大陸文化も壱岐を窓口として流入してきており、まさに壱岐は、日本とアジア大陸を結ぶ架け橋であった。

しかし、いったん外交上不利な問題が起きると、国防の最前線となるところでもあった。鎌倉時代の元寇（文永・弘安の役、1274年）では、元・高麗あわせて約4万の大軍に襲われ、壊滅的な打撃を受けた歴史があり、また、豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の際には、勝本（現在の壱岐市勝本町）に勝本城が築城されている。

このように壱岐は古くから中国を始めとする大陸との深い関わりがあり、歴史的に重要な意味を持つ交流拠点として現在に至っている。

このような特性から壱岐島内には数多くの歴史的遺産が存在している。その中でも特に「原の辻遺跡」は、環濠集落としては国内最大級の規模を誇り、出土した遺物の質・量などから、中国の歴史書『魏志倭人伝』に記載されている「一大（支）国」の王都であったことが判明している。また、検出された遺構・遺物により、集落の構造と当時の暮らしや大陸との交渉の窓口という性格などが明らかになって

おり、中国の歴史書に記された国（クニ）の中心集落の実態が明らかになったという点では希有の例と言える。

これらの成果は考古学のみならず古代史・東アジア史・建築史などの幅広い分野に渡り学術的価値が極めて高いとされ、平成12年、弥生時代の集落としては国内3カ所目の特別史跡として国指定を受けている。

- (2) 壱岐は福岡県と対馬の中間点で、博多港から郷ノ浦港まで西北76km、佐賀県呼子港から印通寺港まで北26kmの位置にあり、南北約17km、東西約15kmのやや南北に長い亀状の島である。地形は一般に丘陵性の玄武岩をなし、高度100mを超える山地が占める面積は極めて小さい。

壱岐島の全体面積は138.45km²で、離島としては北海道の奥尻島に次いで20番目の大きさとなっており、島全体が平坦で農地が多く道路網が発達し、民家は散在した形態を保っている。

分水嶺は西に偏り、谷江川は北西から南東に、幡鉾川は西から東に流れ、その流域には本島最大の平野が発達している。また、海岸線には屈曲が多く、海岸平野の発達に乏しい。

海岸線は、発達した海蝕崖が見られる北東部を除けば出入りが多く、大小の湾入がある。特に西岸一帯は激しく、溺谷の原形を保っている。

また、南東岸には大小の砂浜が点在する。

昭和43年7月22日、壱岐の一部地域が壱岐対馬国定公園に指定され、また、昭和53年6月16日、辰の島、手長島、妻ヶ島の3カ所が海中公園地区に指定されるなど自然景観に恵まれている。

- (3) しかしながら、近年は、上記のような地理的特性を活かした農業や漁業の基幹産業に陰りが見え、更に少子高齢化と若者の島外流出により過疎化が進行し、国・県の財政の逼迫に伴って財政運営に支障をきたす等従前の住民サービスの維持が困難になってきた。

このように社会情勢が変化し、本格的な地方分権社会を迎える中において、複雑・多様化する住民のニーズに対応するには、行政の効率化と財政の合理化を一層推進することが求められ、市町村合併により、より強固な財政基盤を築き、自己責任、自己決定を旗印に島民総立し壱岐の浮上発展に取り組むこととして、平成16年3月1日に、壱岐郡4町が合併し、1島1市の壱岐市となった。

- (4) 人口は昭和30年の51,765人をピークに人口流出が続き、年々減少して

いる。これは、壱岐の基幹産業である農業、漁業の低迷及び若年齢層の就労の場が少ないことなどによるものである。

平成12年の国勢調査の人口は33,538人、世帯数は10,661で核家族化が進行し、1世帯あたりの人員は約3.1人と少ない。

また、65才以上の高齢化率は、平成12年の国勢調査で27.1%となっており、長崎県の平均20.8%より高く、少子化と共に県内の他の地域よりも進行が早くなっている。

5. 構造改革特別区域計画の意義

本県では、「豊かな地域力を活かし、自立・共生する長崎県づくり」を基本理念に「21世紀に生きる力と郷土を担う人材を育む長崎県づくり」を基本方針の一つに掲げ各種施策に取り組んでいる。中国との交流に関しても、同じ東アジアの文化圏として中国との関わりが深いことから、「長崎県日中親善協会」を昭和48年に設立するなど、人的・文化的・経済的交流を積極的に推進しているところである。

また、経済成長が著しく世界で重要な位置にあるに中国と今後協調関係を深めていくことは本県のみならず日本にとっても非常に大切なことであり、子どもたちが、中国の文化や生活、中国語に親しむことにより中国に対する理解を深めることは重要なことであると考えている。

また、県立壱岐高等学校が所在する壱岐島は、「4」でも述べたように中国の魏志倭人伝に「一支國」として登場するように、古くから大陸との関わりが深く、本土と大陸を結ぶ中継拠点の役割を担ってきた。

本計画は、このような壱岐の中国との交流の歴史的背景を踏まえ、特色を活かした地域づくりに取り組んでいくもので、壱岐高校の「原の辻歴史文化コース」に新たに設置する中国語専攻において、卒業に必要な学校設定科目（基礎中国語、中国語会話、中国史研究、アジア交流史など）の単位を学習指導要領で定める上限の20単位を超えて25単位に設定し、将来、ゆかりのある中国との架け橋となる有為な人材の育成を目指すものである。

6. 構造改革特別区域計画の目標

壱岐高校では、本県独自の離島留学制度のコースの一つとして、原の辻歴史文化コースを平成15年度に設置し、壱岐の郷土史や中国・朝鮮半島との交流の歴史を学ぶ授業を実施している。

この離島留学制度の原の辻歴史文化コースに平成17年度から中国語専攻を設置し、構造改革特別区域研究開発学校とすることにより、より質の高い教育を行い、中国語や中国文化に精通した人材を生み出し、将来、中国との架け橋となる国際的に活躍できる人材を育成することを目標としている。

具体的には、計画初年度（17年度）の入学生が卒業する19年度（20年3月）以降毎年10名程度が関連する学校等に進学でき、様々な分野で活躍できるよう取り組んでいきたい。そのようなことから高校卒業後の進路として、国内はもちろん、中国の北京語言大学（北京市）、華東師範大学（上海市）、上海外国語大学（上海市）などを開拓しているところである。

7. 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

壱岐高校における地域の特性を活かしたこの取り組みは、島外からの生徒の入学をはじめ中国の学校との交流事業などによる交流人口の拡大や、壱岐市と中国との交流をさらに推進させるものであり、今後、壱岐市の活性化に十分寄与するものである。

また、教育効果は、長期的に見なければ現れないものであるが、壱岐高校の中国語専攻で学んだ生徒を関連する学校等に継続的に輩出することにより、将来、その人材が知識・能力を十分に発揮し、企業や行政の中核で活躍することが見込まれるとともに、本県のみならず、日本経済と社会の発展のために貢献することが大いに期待される。

さらに、国際化が進展する中、これからの国際社会の中で国際感覚豊かな広い視野を持った人材の育成は、観光産業をはじめ各種産業にとって将来的に十分な効果を及ぼすものと考えられる。

8. 特定事業の名称

番 号	特定事業の名称
802	構造改革特別区域研究開発学校設置事業

9. 構造改革特別区域において実施し又はその実施を促進しようとする特定事業に関する事業 その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事業

以下の事業を進めることにより、離島留学を希望する生徒を増やし、中国語を習得する生徒の増加を図ることが可能となり、事業の推進に寄与するものとする。

① 本事業の対外的な広報活動の実施

現在の離島留学制度のコース募集についても既に行っているが、教育活動の全般など対外的な広報活動をさらに充実させるとともに、ホームステイ先の紹介やホームステイ費の補助、卒業後の進路先などについても広報し、生徒募集を推進する。

② 中国語担当教員の充実

新たに中国語の学習を導入することから、北京市教育委員会又は上海市教育委員会から推薦を受けた中国人教師に臨時免許状を交付し、期限付教員として採用するとともに、中国語教員免許を持っている教員の配置を行うなど、教員の充実を今後さらに進める。

また、このことにより、さらにきめの細かい学習指導を目指す。

③ 進路保障のための大学等訪問

中国語専攻の生徒の進学先については、国内はもちろん、中国の北京市・上海市の教育委員会を訪問し、進学先の大学（北京語言大学、華東師範大学、上海外国語大学等）を開拓していく。

④ 県教育委員会の定期的な学校訪問の実施

県教育委員会が、通常の学校訪問以上の頻度で、実際に壱岐高校を訪問して教育活動等の実態を把握し、よりよい指導方法やカリキュラム、学校行事等の改善へ向けて学校と協議を今後も引き続き行っていく。

⑤ 生徒の中国の大学訪問や中国人家庭へのホームステイに派遣する予算的なバックアップ

今後、新たなメニューとして、予算化を検討していく。

⑥ 中国への研修旅行並びに中国の学校との交流行事参加生徒への予算的なバックアップ

下記のような予算化を検討する。

※中国交流渡航費用補助事業

中国への研修旅行など、本コースの生徒が中国との交流を目的に中国へ赴く場合、交通費及び宿泊費の2分の1を年1回に限り補助する。

⑦ 島外からの離島留学生へのホームステイ費の補助

島外からの留学希望者に対し、下宿とは異なった里親的対応（ホームステイ的対応）を取ってくれる受け入れ先を、学校・地方自治体により組織された受け入れ委員会において責任を持って手配し、さらに県及び市において月額3万円のホームステイ費援助を行っているが、今後も引き続き行う。

別紙

1. 特定事業の名称

802 構造改革特別区域研究開発学校設置事業

2. 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者

長崎県立壱岐高等学校

3. 当該規制の特例措置の適用の開始の日

平成17年4月1日

4. 特定事業の内容

- (1) 事業主体 長崎県
- (2) 事業区域 長崎県立壱岐高等学校
- (3) 実施期間 平成21年度に事業について評価・見直しを行う。
- (4) 事業により実現される行為や整備される施設など
 - ① 壱岐高校原の辻歴史文化コースにおける学校設定科目の単位認定について、中国との関係を重視した科目を25単位設置し、将来国際的に活躍できる人材の育成を目指す。
 - ② 整備される施設 : 特になし

5. 当該規制の特例措置の内容

(1) 特例措置の必要性

壱岐高校原の辻歴史文化コースは、本県独自の離島留学制度のコースのひとつとして平成15年度に設置し、壱岐の郷土史や・中国・朝鮮半島との交流の歴史を学ぶ授業を実施している。

壱岐高校が所在する壱岐島は、古くから大陸との関わりが深く、本土と大陸を結ぶ中継拠点の役割を担ってきたが、特に同じ東アジアの文化圏として中国との関わりは深い。このようなことから、本県では古くからゆかりのある中国との交流を積極的に

推進している。

このコースに、歴史学専攻と中国語専攻を設置し、1年生からいずれかの専攻を生徒が選択して学習するカリキュラムを作成した。新たに設置する中国語専攻は、将来中国との架け橋となる有為な人材の育成を目指しており、中国の大学に進学する道も開拓中である。このような目標達成のために高校時代から中国学を深く学ぶが、学習指導要領に定める単位数を超えた学校設定科目の単位数の設置が必要であり、特区申請に至った。

① 教育課程の基準によらない部分

- ・ 中国語専攻における学校設定科目の卒業までに必要な単位数について、学習指導要領で定められている上限の20単位を25単位まで引き上げる。
- ・ 中国語専攻においては、学習指導要領で必履修科目と定めている「情報」を設定しない。

今回取り組む中国語専攻では、中国の大学進学等を考慮し、中国語関係の学習を一層充実させるために、弾力的な教育課程の編成が必要である。

② 計画初年度の教育課程の内容（別紙教育課程表）

計画初年度は、学校設定科目「基礎中国語」6単位を設定しており、ここでは基礎的な日常会話、文法、発音及び漢字の成り立ち等を学習することになっている。そのほか、中国語専攻では、「中国語会話」「中国語講読」「中国歴史文化研究」など、3年間で学校設定科目25単位を上限として設定している。

中国語を教える教員については北京市又は上海市教育委員会から推薦を受けた中国人教師に臨時免許状を交付し、期限付教員として採用するとともに、中国語教員免許を持っている日本人教員の配置を考えている。

(2) 要件適合性を認めた根拠

① 学校教育の目標について

本計画では、「基礎中国語」「中国語会話」「中国語講読」等の中国語、中国文化に関わる学校設定科目を設定することとしている。これらの学校設定科目については、学校教育法に示されている学校教育の目標を達成するために科目の自由な設定が必要となる。そのために、数学・理科等の教科の単位数がやや少なくなっているが、この点は、学習意欲の高い生徒には個別指導等で対応できる体制が十分に整っており、問題はないものと考えている。

また、「情報」を履修しないことに関しては、総合的な学習の時間で補うこと

ができると考えている。壱岐高校における総合的な学習の時間では、年間を通して高齢化社会問題などをテーマに年金・バリアフリーなどについて学習する予定である。その中でインターネットを使った調べ学習、表計算ソフトを使った処理及びPowerPointを使ったプレゼンテーションを実施し、必要な情報を主体的に収集・処理し、受け手にとってわかりやすい情報の発信・伝達できる能力の育成を図ることとしている。また、コンピュータや情報通信ネットワークのしくみを理解させるなどの基礎的な理論や方法を学び、実践していくこととしている。さらに、それらの活用に伴って生じる情報の信憑性、著作権、プライバシーの保護等の問題点を実習と関連させて、その背景にある考え方を生徒に考えさせるような教育内容にすることとしている。このことは、教科「情報」の内容が、総合的な学習の時間に十分に盛り込まれていると判断でき、現行の学習指導要領に質的に劣るものではないと考える。

② 離島留学制度について

長崎県には多くの島があり、古くから大陸との架け橋、文化交流の拠点として重要な役割を果たしてきた。離島留学制度は、積極的な目的意識や意欲を持った高校生に学習の場を提供して、島の豊かな自然や文化の中で学習や部活動に取り組み充実した高校生活を送ってもらうとともに、自分の夢を実現してほしいという目的で創設された。対馬高校（国際文化交流コース）、壱岐高校（原の辻歴史文化コース）、五島高校（スポーツコース）、猶興館高校大島分校（ヒューマニティースクール）の4校それぞれが特色あるコースを持ち、平成15年度4月に県内外から第1回の新入生を迎えた。各高校は特色あるカリキュラムを編成するとともに、コース独自の行事も豊富に計画し、生徒一人一人の個性や能力を伸ばす教育を実践している。

③ 壱岐高校原の辻歴史文化コースの現況

壱岐高校原の辻歴史文化コースの1年生は現在、「考古学」の入門を学びながら日々の授業や学校行事に積極的に取り組んでいる。壱岐の郷土史や中国との交流の歴史を学ぶ授業や、海外への遺跡見学旅行・大学の先生の特別講義・遺跡調査活動などの行事などにより、将来は専門分野を生かして大きな活躍する人材の育成に努めている。

④ 壱岐高校原の辻歴史文化コースの卒業生の展望

国内の大学においては、考古学を学ぶ学部でいくつかの指定校を受けており、今後さらに拡大していく予定である。

中国語専攻の生徒の進学先については、国内はもちろん、中国の北京市・上海市の教育委員会を訪問し、進学先の大学（北京語言大学、華東師範大学、上海外国語大学等）を開拓中である。同じ離島留学のコースを持つ対馬高校については韓国の大学への進学道が開けており、壱岐高校でも同様に国内外に進学先を確保することが可能であると判断している。

⑤ 学校設定教科・科目の修得単位数が20単位を超える生徒数の見込み

平成17年度 0人

平成18年度 0人

平成19年度 (H20.3) 10人

平成20年度 (H21.3) 20人

(3) 認定後について

特区が認定されれば、平成17年度入学生から適用し、実施後は毎年度活用状況の報告を求める。